

# 八丈島測候所

## (事後評価)



平成18年9月11日 国土交通省関東地方整備局

# 旧測候所の状況

## ◆老朽化

→旧測候所(業務課、技術課)

第一庁舎：S 1年度建築  
(建築後75年経過)

第二庁舎：S37年度建築  
(建築後39年経過)



旧八丈島測候所(業務課、技術課)

→旧測候所(高層課)

第一庁舎：S32年度建築  
(建築後44年経過)

第二庁舎：S40年度建築  
(建築後36年経過)



旧八丈島測候所(高層課)

## ◆狭隘化

→必要延面積の5割程度(延べ面積:825m<sup>2</sup>)

## ◆機能分散

# 事業概要

## 位置図



## 事業概要

# 位置図



八丈島測候所

移転統合



旧八丈島測候所(高層課)



旧八丈島測候所(業務課、技術課)

## 八丈島測候所の役割

八丈島測候所は、一般気象観測をはじめ  
様々な観測を行う太平洋上の重要な観測  
地点と位置づけられている。

- ◆一般気象観測、高層気象観測、地震観測、津波観測、海洋観測、放射能観測、航空気象観測等を行う観測地点
- ◆伊豆諸島南部の天気予報を担当
- ◆観測結果や統計資料は国民生活に不可欠な防災情報や生活情報として使用

## 施設概要

- ◆敷地面積：約3,612m<sup>2</sup>(庁舎)  
約3,987m<sup>2</sup>(測風塔)
- ◆延べ面積：約1,480m<sup>2</sup>(庁舎)  
約130m<sup>2</sup>(測風塔)
- ◆構造：RC-3他(庁舎)、RC-4(測風塔)
- ◆設計：平成13年8月～平成14年2月
- ◆工期：平成14年3月～平成15年12月
- ◆総事業費：約10億円

## 計画の妥当性

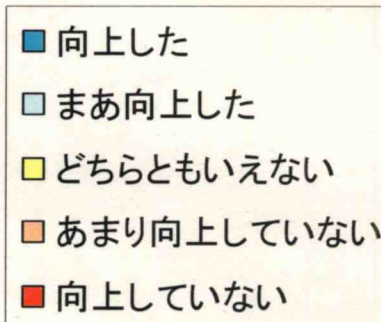
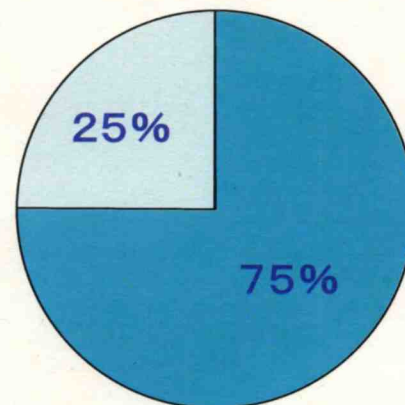
# 執務環境の向上

【アンケート結果】(職員(20人))

Q. 執務環境は向上したか

○ 向上した(100%)

- ・ 執務室内に開放感がある
- ・ 明るくなった



※ 調査日:平成17年8月

# 利用者への配慮

【アンケート結果】(職員(20人))

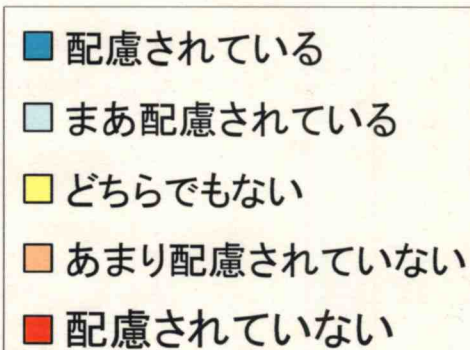
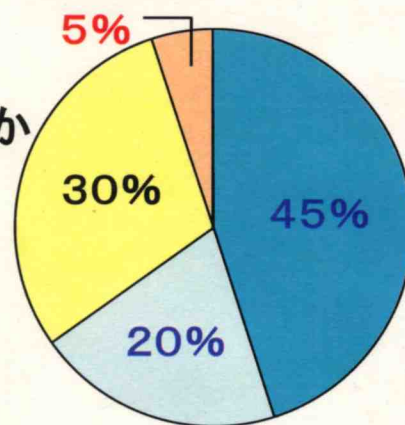
Q. 利用者への安全性に配慮されているか

○ 配慮されている(65%)

- ・ お年寄りや子供などへの安全性

× 配慮されていない(5%)

- ・ エレベーターの位置がわかりづらい



※ 調査日:平成17年8月

## 付加価値の付与 (環境への配慮)

### ◆省エネルギー化

- ・空調システムの運転切替
- ・雨水利用
- ・外気冷房

### ◆信頼性を兼ね備えた計画

- ・熱源機器の二重化
- ・除塩フィルターの設置

## 耐震性能等の確保

### ◆安全性、経済性、耐久性の高い構造計画

- ・大規模災害時に、活動できる施設として計画



# 事業の効果

## ■費用対効果

(単位:百万円)

	項目	種別	効果
効果	土地有効利用	土地処分益	44
	利用者の利便	立地の改善	0
		建物性能の向上	1,362
	安全の確保	事故・災害の縮小	75
	環境への配慮	地球環境保全への寄与	1
総効果(B)			1,482

(単位:百万円)

	項目	種別	費用
費用	初期費用	建設費	1,174
		企画・設計関係費	56
		土地取得費	0
	維持修繕費	—————	207
総費用(C)			1,436

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \underline{1.03}$$

## ■その他の効果

- ・ 狭隘解消による執務環境の向上
- ・ 観測機器の集約及びGPS高層観測システムの導入に伴い、観測業務の効率化

## 今後の対応方針(案)

当初計画の目的としては概ね達成できている。今後、定期的に庁舎の実態調査を行い、利用者の利便性を確保しつつ経年などによる業務能率の低下等を招くことのないよう、保全指導や適切な時期に改修等を実施していく。